

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2021. 3. 6

No.643

2021年春闘交渉 収入動向

3月5日、本部は2021春闘交渉収入動向を行いました。以下、報告します。

まず、営業部から営業成績（2021年1月）説明

(単位:百万円、千トン、%)

扱別	種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年		
					増減	比	増減	比	
月計	収入	コンテナ	7,647	8,868	8,872	-1,221	86.2%	-1,225	86.2%
		車扱	1,290	1,257	1,300	33	102.6%	-10	99.2%
		計	8,937	10,126	10,171	-1,189	88.3%	-1,234	87.9%
	輸送量	コンテナ	1,357	1,564	1,584	-207	86.8%	-227	85.7%
		車扱	838	812	838	26	103.2%	0	100.0%
		計	2,195	2,376	2,422	-181	92.4%	-227	90.6%
年度累計	収入	コンテナ	88,515	89,488	95,664	-973	98.9%	-7,149	92.5%
		車扱	10,467	10,313	11,219	154	101.5%	-752	93.3%
		計	98,983	99,801	106,883	-818	99.2%	-7,900	92.6%
	輸送量	コンテナ	15,523	15,709	17,239	-186	98.8%	-1,716	90.0%
		車扱	6,637	6,562	7,200	75	101.1%	-563	92.2%
		計	22,160	22,271	24,439	-111	99.5%	-2,279	90.7%

1. 収入動向「対計画△1189百万円(88,3%)」

コンテナは、北日本・日本海側を中心とした記録的な寒波に伴う津軽線等の不通及び新型コロナウイルス第3波到来による需要低迷により、全ての品目で計画を下回った。特に、北海道発の農産品・青果物、外食産業向けの食料工業品、樹脂等の需要が低迷する化学工業品・化学薬品が計画を大きく下回った。結果、コンテナ全体では計画比86,2%となった。車扱は、気温の低下に伴い石油が発送増となり計画比102,6%だった。

コンテナ・車扱の合計では、計画比88,3%となった。

・コンテナ

全品目とも、記録的な寒波で津軽線及び日本海縦貫の各線区が不通となった影響を大きく受けた。農産品・青果物は、外食向けの販売不振もあり北海道から本州向けの玉葱・馬鈴薯・民間米の発送が落ち込み、対計画△301百万円となった。食料工業品は、ビール類・飲料水の販売不振のほか、新潟発の菓子類が減送し、対計画△272百万円となった。紙・パルプは、販売不振に伴う減産で対計画△63百

万円、化学工業品・化学薬品は、ペットボトル及び製紙用の樹脂等が減送し、それぞれ△103百万円、△84百万円となった。自動車部品は、国内・欧州向けの販売不振や半導体不足による生産調整の影響も受け、対計画△52百万円となった。結果、コンテナ全体では対計画△1221百万円（86,2%）となった。

・車扱

気温の低下に伴う石油の発送増、及びセメント・石灰石の好調な発送により計画を上回った。車扱全体では対計画+33百万円（102,6%）となった。

「対前年△1234百万円（87,9%）」

・コンテナ

記録的な寒波で津軽線及び日本海縦貫の各線区が不通となった影響に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷もあり、前年を大きく下回った。農産品・青果物は北海道発の玉葱・馬鈴薯・民間米が特に減送となり、対前年△286百万円だった。食料工業品は、外食産業向けビール類や飲料の販売不振、及び地産地消の影響もあり、対前年△259百万円となった。紙・パルプは、販売不振に伴う減産で対前年△68百万円、化学工業品・化学薬品は、製紙用の樹脂及びタイヤ原料等が低調で、それぞれ△100百万円、△80百万円となった。積合せ貨物は、特に北海道を発着とする貨物が大きく減送し、対前年△55百万円だった。コンテナ全体では対前年△1225百万円（86,2%）となった。

・車扱

石油は、気温の低下で発送が増えたものの、緊急事態宣言下におけるガソリン需要の低迷により前年を下回った。車扱全体では対前年△10百万円（99,2%）となった。

2. 輸送量動向

コンテナは、新型コロナウイルス第3波到来による需要低迷、及び北日本・日本海側を中心とした記録的な寒波に伴う津軽線等の不通により、全ての品目で前年を下回った。

食料工業品は、北海道・新潟地区を発着とする清涼飲料水や菓子類、及び東北発のビール類が大幅減となった。農産品・青果物は、外食産業向けの販売不振もあり、北海道から本州向けの玉葱・馬鈴薯・民間米等が大きく減送した。また、化学

工業品・化学薬品は、製紙用・ペットボトル用の樹脂等が低調に推移しているほか、紙パルプは販売不振による生産調整の継続により前年を下回った。結果、コンテナ全体では前年比85,7%となった。

車扱は、外出自粛によりガソリン需要が低迷する一方、気温の低下に伴い灯油が堅調に推移し、前年を上回った。車扱全体では前年比100,3%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比90,7%となった。

「営業部」

組合・2020年度は「コロナ禍」という大変厳しい営業を強いられたが、残すところあと1ヶ月となった。営業収入において計画通り（1月改定数値）見込めそうか。

会社・3月4日現在でコンテナ・車扱合計で対計画△1,084百万円となっている。緊急事態宣言の延長も想定され、1月計画の達成は厳しい状況である。しかしながら、年度末繁忙期の引越需要取込み等、増収活動を引続き実施していく。

組合・西日本豪雨があった2018年度でも、連結経常利益45億を確保した。そのことを考慮すれば、現在の会社の状況は非常に厳しい状況と理解するが、2021年度にむけて打開策等はあるのか。

会社・2021年度収入計画は、コロナの収束を前提として作成している。そのため、計画達成には、2019年度並みの輸送量に戻すことが必須となることから、輸送量の回復を第一として取組んでいく。具体的には、コロナ禍でも堅調に推移している、積合せ貨物・食料工業品の取込み、政府が掲げる2050年までの「カーボンニュートラル」の目標等を背景としての、ホワイト物流協賛企業へアプローチ、更にはコロナ禍での社会情勢の変化に対応すべくオンラインセールス体制の確立なども実施していく。

組合・日本の経済は、2019年10月の消費税アップから下降していると言われている。たとえコロナ感染症が収束しても、しばらくは厳しい状況が続くと考えられ、相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破すべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。

会社・営業部隊一丸となって、収入確保に努めていく。安全安定輸送が全てのベースになるので、ご協力をお願いしたい。

「人事部」

組合・会社が非常に厳しい状況であることは理解しているが、通期見通し計画（単体・1月改定数値）では黒字を見込んでいる。この数値は組合員一人一人での努力の賜物であることを強く認識して頂きたい。

会社・皆さんの苦勞も理解しているがコロナ禍に加え、1月と2月の災害の影響もあり現状は大変厳しい状況になっている。最後まであきらめずに頑張りたい。

組合・人材は会社の財産である。会社がどんなに良い将来展望を描いても、人材が無ければ達成は出来ない。労使が一体となり、コロナ禍という窮地を打破していくためには、将来に希望が持て安心して働ける環境づくりが必要である。次回、「会社の考え」となるが、組合員の士気を上げるためにも誠意ある回答を強く求める。

会社・貴組合の主張を踏まえ社内で議論し次回、会社の考えとしたい。

以上
